

説教余滴 2018年11月11日、ウソという名の鳥、

これは、ほんとの話です。

ずいぶん昔のことですが、頌栄女子学院の生徒達と信州の山荘へ行きました。

途中、須坂から山田温泉までバスが通っています。このバス停の脇に大きな桜の木があります。その周辺でほっぺの赤いきれいな小鳥を見ました。山荘の管理人、マキオさんに聞きました。

「あれは、ウソだよ。嘘じゃないよ、ホントだよ。きれいな声だったろう。桜の花芽を食べてしまうものだから、地元では困っているんだ。お花見が出来なくなっちゃうんだから。」

留鳥または冬鳥として九州以北に渡来する。中部地方以北の本州と北海道では、山地の針葉樹林で繁殖し冬には南下し平地の林でも見られます。主に草木の種子や膨らみかけた芽を採食し、昆虫類やクモ類も食べます。

美しくおっとりした感じで、正直で善良そうに見えると、ある人は言いました。しかしこの鳥の食性の特徴は、群れをつくってサクラ並木や果樹園などにやって来て、ふくらみかけた花のツボミを食べてしまうことです。せっかくのツボミをむしり取ってしまうのです。昔、イギリスでは果樹の被害を防ぐために、懸賞金をかけました。日本でも、公園のサクラを守るためとして駆除が行われたりしていますが、はたしてそれほどの被害があったのでしょうか。

口笛を吹くことを「うそ吹き」といいます。鳴き声が口笛の音に似ているので、ウソという名がつけられました。

雄は、"てりうそ"といえます。顔と喉が赤くて美しいのでこのように呼ばれました。雌は、赤い所がなく全体に茶色なので、"あまうそ"といえます。照りに対して雨と名づけたということです。